

「ろくろで作る益子焼」



第1回（1月8日～9日）
「ろくろで作る益子焼」を開催しました。
益子焼伝統工芸士の萩原芳雄氏、萩原芳典氏を講師として全4回の日程で行いました。



初日は、陶芸の基本的技術である「土練り」、「芯出し」、「土殺し」を経験し、ろくろ成形及び手びねり陶芸を行いました。



ろくろ成形の様子です。
初めて参加する人も、先生方の丁寧な指導のおかげで、茶碗や湯呑みなどを作ることができました。



手びねり陶芸の様子です。
ろくろ成形とはまた違った味わいが出る、手びねり陶芸。それぞれが、自由成形に取り組みました。



第2回（1月15日）
作業3日目は、高台削りを行いました。
ろくろで作った作品の形を決める作業です。
厚すぎても、薄すぎても良くない、非常に繊細な作業です。皆さん真剣に取り組んでいる様子が印象的でした。



素焼きを終えた作品です。
「釉薬は粘土に着せる洋服のようなもの」とも言われます。
これらの作品も釉薬がかかるのを待ちわびているように見えました。



第3回(1月29日)
作業4日目は、釉薬がけや絵付けの作業を行いました。
本焼き前、最後の工程です。皆さん、焼き上がりをイメージしながら釉薬がけを行っていました。



第4回(2月5日)
焼き上がった作品の鑑賞会です。
参加者同士が、互いの作品について話をしたり、講師と出来栄えについて振り返ったり、とても有意義な時間となりました。



閉講式では、両講師から事業全体について講評をいただきました。
講師の「楽しかったでしょ？」の一言に、参加者からもたくさんの笑顔が見られました。



感染症対策を講じて、全日程を無事開催することができました。参加者の皆さん、ご協力ありがとうございました。

※撮影時のみマスクを外しています。